

研究課題 (テーマ)		生物工学科でえがく未来のキャリア	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	生物工学科	教授	占部大介
	生物工学科	教授	大島 拓
研究結果の概要			
<p>本プログラムは昨年度実施した「生物工学科でのキャリアビジョン」を引き継ぎ、将来、大学(院)卒業後に県内企業への就職が見込まれる県内高校生に向けて、生物工学科で描けるキャリアの具体例を紹介し、①本学科の受験倍率向上、②県内企業への就職促進を目指す。今年度は以下の3つの活動を実施した。</p> <p>県内高校へのOB訪問：生物工学科から大学院に進学したM2の学生一名が出身高校である高岡南高校(10/22)に訪問し、高校1-3年生15名と教諭4名を対象に、現在取り組んでいる研究、その研究経験を生かしたキャリア形成について30分程度講演し、30分程度の質疑・応答を行った。講演後には生物工学科や将来のキャリア形成に関するアンケートを実施した。高校生にとっては、教員が学科内容や研究について説明するよりも親近感のあるOGによる学生目線の大学生活や研究生活が印象深く映っていることが分かった。一方で、県内就職などの将来像を明確に描いている生徒はあまり見受けられず、大学進学やその後の教育が大きく影響する事が分かった。</p> <p>学科構成員と高校生との懇談会：オープンキャンパスが実施された日の午後(7/20, 8/8)に、生物工学科懇談会を開催した。学科教員2名が30分程度、大学院生3-4名が15分程度、それぞれ簡単な研究紹介と自らの視点から学科紹介を行い、参加した保護者と高校生が大学教員や大学院生と、大学生活や学問・研究に関して懇談した。7/20は参加者少なく2名(保護者含め5名)であったが、学科HPに懇談会の案内を掲載することで8/8は11名(保護者含め17名)の参加があった。</p> <p>学科HPの拡充：受験生が興味を抱きやすい学科紹介動画、進路関連、OBOGのメッセージのコンテンツを充実させた学科HPを作成した。</p>			
今後の展開			
<p>本プログラムに沿った活動を3年ほど学科で実施しており、徐々にではあるものの受験倍率向上、県内就職者の増加がみられている。次年度以降もより活動規模を拡充させつつ、同様な活動を根気強く続けることが重要であると考えている。</p>			